

## 2014年9月の金融経済概況のポイント

— 7、8月の景気指標やヒアリングをもとに判断しました

### ■景気の基調判断

➤景気判断は据え置きました。

— 7月時点の「着実に持ち直している」との判断を継続。

### ■項目別の变化点

➤項目別にも7月時点の判断と大きな変化はありませんが、主な項目の現状の方向感を示すと以下の通りです。

全体感	個人消費	観光	公共投資	住宅投資
➡	➡	↗	➡	↘

### ■今回の注目点

➤①個人消費の動向（消費税率引き上げの影響）、②夏場の観光動向について、やや詳しくくみます。

- 個人消費については、7～8月に雨が多かったことから、小売店の客足が鈍ったほか、夏物衣料等の売行きにも影響が出ました。このため、百貨店、スーパーの売上げは、7月時点で集計するとまだ前年比マイナスとなっていますが、4月以降、月を追う毎にマイナス幅は小さくなってきています。最近では、秋物衣料の販売が順調とか、畜産品等の食料品の販売も好調との声が聞かれており、8月、9月と個人消費の回復傾向は続いているとみられます。
- 品目別にみても、日用品や雑貨の売行きが持ち直しているほか、値嵩品の販売もみられるなど、全体として、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動は和らいできているとみられます。この間、乗用車や住宅販売には、なお消費税率引き上げの影響が残っているとみられます。

- 今年の夏場の観光は、全体として好調でした。旭川地区のホテルでは、7～8月の客室稼働率がかなり上昇し、「ほぼ満室状態」の先も少なくありませんでした。道内外からのファミリー客が目立ったほか、7月から新たに就航した中国便も含めて旭川空港に大勢訪れた台湾等外国人観光客も好調な観光を下支えしました。8月は台風の影響で飛行機が欠航となったこと等もあり、7月に比べ少し客足が落ちましたが、夏場全体として、観光客の入りは良好でした。こうした旅行需要の高まりを受けて、ホテルの客室単価も前年に比べて上げた先が多かったようです。

—— ただ、道東地区については、観光バス代が値上がりしていること等が影響して、観光客が札幌や旭川から足を伸ばすケースが少なかったとの声が聞かれており、前年に比べて客数が減っています。

## ■今後のポイント

- ①電気料金値上げの影響、②為替動向が注目されます。
- 秋口以降の景気動向をみるうえでのポイントは、まず、北海道電力の電気料金の値上げが実施された場合、企業や家計にどのような影響が出るかという点です。また、今後の為替相場が輸入物価を通じて灯油価格等に及ぼすインパクトも注意してみていく必要があると考えられます。

以 上

